

釜石鵜住居復興スタジアム運営計画 うのスタ・スクラムトライプラン



KAMAISHI UNOSUMAI MEMORIAL STADIUM

スタジアムのロゴ

スタジアムを囲む豊かな自然を表現。赤い丸は「新しい出発」の意を込めて海からの「日の出」を表現し、3つのウェーブは、解放された空、緑の山林、豊かな海というスタジアムの個性を表現しています。



令和4年3月31日策定
釜石市

<目 次>

はじめに・目的	1
第1章 計画の概要	3
1. 計画の目標	
2. 計画の役割	
3. 計画の期間	
4. 計画の基本方針を示すスローガン	
5. 計画の目標	4
6. 計画の進行管理	
第2章 施策・計画の体系	5
基本計画 1 ラグビーによる利活用の推進	6
基本計画 2 ラグビー以外による利活用の推進	12
基本計画 3 ボランティア受入活動の推進	16
基本計画 4 Web・SNS等を活用した情報発信と利用促進	19
その他の取組み	22
第3章 スタジアムの運営方法	23
運営方法検討にかかる参考資料	25
資料編	27
条例・規則・設置要綱	
計画策定の参考資料	

はじめに

東日本大震災により多くの被災者は、住み慣れた地域から離れた場所へと移り住み、家族や親類のほか、仕事やそれまでにコミュニティ、普段の生活そのものまでが失われた。

震災直後から国内外の多くの支援者による救援物資や、震災関連の見舞金、他団体による復興支援のイベントや国からの生活保障制度が充実してくる一方で、愈える事ない心の傷を抱えたまま、夢や希望を失った多くの市民が苦しい生活をしていた。

このような状況において、ラグビーワールドカップ2019大会が日本で開催されることが決定されており、これまでラグビーを応援し支えてきた被災市民は、「釜石でラグビーワールドカップが開催したら夢のようなのに。」と思うようになり、その想いが声となり、やがて大きな希望となった。

当市は、ラグビーワールドカップ2019日本大会（以下RWC2019と表記）を誘致・開催することにより、基盤整備事業の加速による復興と、これまでの復興支援に対する感謝の気持ちを伝えながら、市民の元気を世界発信し、大会開催を契機とした市民の心の復興を目指すことを開催の意義とした。

誘致決定と同時に、スタジアムを有していない釜石市は、スタジアムの設計・施工に取りかかり2018年7月に釜石鵜住居復興スタジアムを完成させた。

大会誘致とスタジアム建設については、当時、市民の中にも賛否の声があり、「スタジアムを建設する財源があったら生活再建に使うべき」という声が多々あり、特にスタジアム建設場所である鵜住居(うのすまい)地区では反対する被災者も少なくはなかった。このため、ラグビーワールドカップの誘致・開催を進める市民団体は、鵜住居地区での座談会の開催や、被災者が入居する仮設住宅を1軒ずつ訪ねては、RWC2019釜石開催の意義とその効果を丁寧に説明してまわり、スタジアムの完成とその後のテストイベントを重ねるごとに、それまで反対した市民が「どうせやるなら最高の雰囲気で。」と積極的なボランティア活動を開催するなど、多くの市民がそれぞれの苦難を乗り越えた悲願の釜石開催となつた。



RWC2019釜石開催：9.25 フィジー対ウルグアイ約16,000人による黙祷の様子

目的

世界中の人々が熱狂・興奮・歓喜し、感動を与えたRWC2019は、これまでに開催されたラグビーワールドカップの大会史上において、観客動員数や視聴者数、チケット販売率や経済効果など多くの項目において、それまでの公式記録を塗り替える、史上最高の大会として成功を収め、参加した人々、観戦した人々、大会を支えた人々の、それぞれの心の中に大きな開催レガシーを残す偉大なスポーツイベントとなり、当市は、開催都市としての役割を果たしながら、当初に掲げた大きな目標を達成することができた。

釜石で組まれたRWC2019は、開催12都市の中で最も少ない2試合であったが、子どもたちによる特別なおもてなしの空間に満たされた、9月25日開催のフィジー対ウルグアイ戦は、会場内が感動の空間で満たされ、歓喜の一日となった一方、10月13日開催のナミビア対カナダ戦は、台風19号（ハギビス）の来襲により中止となった。しかし、カナダ代表による、民家の土砂を掻き出すボランティア作業が行われたほか、試合が行われないスタジアムの周りに、多くの観戦予定者が100旗以上のフライキを持ってスタジアムを囲み、キックオフの時間と同時に吹かれた木ラ貝に併せ、多くの黙とうが捧げられたことで、この2試合日がRWC2019大会全体のハイライトとなった。

本計画は、釜石鵜住居復興スタジアムがRWC2019の誘致・開催により生まれた大きなレガシーとして後世に継承していくため、その運営について定めるものです。



RWC2019釜石開催：10.13 カナダボランティア作業・スタジアムを囲むフライキの様子

第1章 計画の概要

1. 計画の趣旨

本計画は、スポーツ庁の平成30年度スポーツ施設の個別施設計画策定支援事業を活用し、当市が行った「釜石鵜住居復興スタジアム等個別施設計画策定支援事業」による調査の成果報告を参考に、釜石鵜住居復興スタジアムが地域に愛されるとともに、釜石ラグビーの栄光の歴史と、RWC2019の開催レガシー（遺産）を伝承してゆく、「ラグビー聖地」としての地位を確立するため、今後の運営方法や施策を定めるものです。

2. 計画の役割

本計画は、釜石鵜住居復興スタジアム建設時に掲げた次の基本コンセプトを踏襲しつつ、これを推進します。

- [1] 三陸被災地のスポーツ施設不足を解消し、県民が集い、スポーツを楽しめる。
- [2] 国際・国内スポーツ大会はじめ音楽・芸術・国際交流等多種多様なイベント開催ができる。
- [3] 常設設備を利用して医療福祉目的の健康体力つくり施設として有効活用できる。
- [4] 震災の記憶と防災の知恵を体感体験できる。
- [5] 新日鐵釜石ラグビー部V7（日本選手権7連覇）、ラグビーワールドカップのレガシー等を体感体験できる。
- [6] 自然環境、歴史文化を野外活動として学習体験できる。釜石オープンフィールドミュージアムとの連携

3. 計画の期間

令和4年を初年度に令和8年までの5年間とします。

なお、社会情勢の著しい変化があった場合には、必要に応じて計画を見直します。

4. 計画の基本方針を示すスローガン

市民に愛される「ラグビーの聖地」へ

5. 計画の目標

計画の推進に当たって、以下の年間目標値を設定するもの。

項目	R3度年	R4度年	R5度年	R6度年	R7度年	R8度年
スポーツ試合等施設利用件数	17	20	22	24	26	28
スポーツ利用以外での利用件数	120	140	150	160	170	180
ボランティア参加者数	157	180	200	210	220	230
ラグビーのまち釜石教室実施件数	15	18	20	22	24	25
視察研修等での施設利用件数	58	70	75	80	85	90
SNSでのスタジアム発信回数	420	500	550	570	590	600

6. 計画の進行管理

本計画に記載されている施策を着実に実行し、その進捗状況や成果についても定期的に点検・評価し、さらにその取り組みを次の段階へとフィードバックしながら展開していくことが必要。このため、計画の進行管理は、PLAN（計画）→DO（実行）→CHECK（確認）→ACTION（改善）のサイクルで行うもの。



第2章 施策・計画の体系

本計画における、利活用推進のための基本方針及び施策の体系は、以下のとおりとする。

基本方針：市民に愛される「ラグビーの聖地」へ

1. ラグビーによる利活用の推進

ラグビーを太陽に重ね、スタジアムの新しいチャレンジが釜石ラグビーの未来を照らし切り拓く。

2. ラグビー以外による利活用の推進

スタジアムを覆う無限の青空のように、多種多様な活用が未来の可能性を広げる。

3. ボランティア受入活動の推進

静かな森林樹木のように、ボランティアの目立たない力強さがスタジアムを支え続ける。

4. Web・SNS等を活用した情報発信と利用促進

広大な海のように、スタジアムの情報がWeb・SNSを通じて世界各地へ流れつく。

1. ラグビーによる利活用の推進

- ・日本代表戦の誘致開催・ジャパンラグビー新リーグの誘致開催・小学生タグラグビー大会の誘致開催・中学高・高等学校・大学ラグビーリーグの試合誘致開催・マスターズ大会の誘致開催・ラグビ一体験（ラグビーのまち釜石教室）の開催・合宿誘致開催ほか

2. ラグビー以外による利活用の推進

- ・釜石健康マラソン大会や小中学校マラソン大会、ニュースポーツ運動会等の開催
- ・サッカー、野球ほか各種競技団体の大会催事の誘致開催・支援
- ・スタジアムコンサートや映画祭などの芸術文化活動の誘致開始
- ・小・中・高等学校の修学旅行や教育旅行の誘致による震災学習
- ・他地域からの視察対応の受入強化

3. ボランティア受入活動の推進

- ・釜石ラグビー応援団との連携によるボランティア活動の誘致開催
- ・NPOスクラム釜石やふるさと応援大使と連携したボランティア活動の誘致開催
- ・ラグビー試合や芸術文化イベントでのボランティア受入活動の開催
- ・スタジアム維持管理作業でのボランティア受入活動の開催

4. Web・SNS等を活用した情報発信と利用促進

- ・Web上での連携プラットフォームの構築・全国企業との情報共有による連携・発信の強化・スタジアムHP・SNS等での発信強化・市公式YouTubeチャンネルでの情報発信強化・Web上の広告掲載等の展開

基本計画 1 ラグビーによる利活用の推進

1. 現状と課題

ラグビーワールドカップ2019™日本大会の会場としての知名度があり、市内外のラグビーファミリーから認識されている。また、2022年1月に開幕したジャパンラグビーリーグワン（以下、「リーグワン」という。）に参入する釜石シーウェイブスRFCのホストスタジアムになっている。

今後もRWC2019のレガシーを継承していくとともに、ラグビーの聖地としてのイメージを確立していく必要があるもの。

2. 施策の方向性と取組み

各種大会、試合や合宿の誘致に取り組む。

また、その実施に当たっては、興業や主催の実施主体や関係団体と連携し、必要な支援を行うとともに、震災学習の機会を提供するなど釜石ならではのおもてなしの展開について調整を行う。

（1）日本代表による試合等

男女15人制をはじめ7人制、ヤングジャパンといった各カテゴリーの日本代表の試合や合宿、交流イベントの誘致に取り組む。



（2）ジャパンラグビーリーグワンの公式試合開催

釜石シーウェイブスRFCのホームスタジアムとして、リーグ戦やカップ戦を併せて最大8試合の開催が見込まれている。その他、交流戦やトレーニングマッチ開催も含めスタジアムの確保に協力する。



2. 施策の方向性と取組み

(3) 中学生、高校生、大学生世代の各種大会

中学校総合体育大会、高等学校総合体育大会・大学ラグビーリーグ等の誘致に取り組む。特に、全国高等学校ラグビーフットボール大会県大会について、岩手県ラグビーフットボール協会や市ラグビーフットボール協会と連携し、子どもたちの憧れの舞台である決勝戦の誘致に取り組む。



(4) その他

・小学生タグラグビー大会の誘致開催



ロータリーカップ：市内小学校対抗タグラグビー交流大会

・マスターズ交流大会の誘致開催



釜石マスターズ交流大会（マスターズ：40歳以上の社会人ラグビーチーム）

2. 施策の方向性と取組み

(4) その他

・ラグビーラグビー（ラグビーのまち釜石教室）の実施

ラグビーワールドカップ2019大会の開催都市となった「ラグビーのまち釜石」の児童生徒が、釜石鵜住居復興スタジアムでラグビーの魅力や楽しさに触れながら、心身の健康増進、体力の向上を図ると共に、日常生活やその後の成長の糧として※“5つのコアバリュー”からなる「ラグビー精神」を身に付ける機会とするもの。

5つのコアバリュー精神とは

- ①「品位」…常に誠実でフェアプレーができ、礼儀を大事にする姿
- ②「情熱」…何事にも熱意を持って取り組み、家族、学校、故郷に愛着、誇りを持てる姿
- ③「結束」…友人やチームメイトとの絆、チームワークで目標を成し遂げる姿
- ④「規律」…規則やマナー、団体の決め事や約束事を守って行動できる姿
- ⑤「尊重」…友人や先輩、先生、チームメイト及び対戦相手を敬い、尊重する姿



座学：RWC2019釜石開催と釜石鵜住居復興スタジアムの取り組みについて（学校体育館）



実技：ラグビーの動きを取り入れたチームメイトとの絆を深める体験学習（学校体育館）



実技：ラグビーの動きを取り入れた仲間との絆を深める体験学習（スタジアム：釜石市役所新採用職員研修）

2. 施策の方向性と取組み

(5) ナミビア対カナダ戦の実現

ラグビーワールドカップ2019日本大会において台風9号の影響により中止となった同カードの試合開催をスタジアムで実現させるべく、メモリアルイベント等を継続開催しながら広く想いを発信し続け、実現に向けての開催機運盛り上げに取り組む。



2019.10.13 中止が決まったのにもかかわらず集まった大勢の観戦予定者と100旗以上の大漁旗



2019.10.13 台風被害が甚大であった千鳥町での、カナダ選手らによる泥かき等ボランティア活動



かまいしラグビー・メモリアルマッチの開催（写真：2020.10.10釜石シーウェイブスRFC 対 クボタスピアーズ）

2. 施策の方向性と取組み

(6) 合宿の誘致

スタジアムのほか、鵜住居地区にある根浜多目的広場、市民体育館をはじめ、球技場、市営プール等市内のスポーツ施設を活用し、市外からのスポーツ団体の誘致に取り組む。



国内強豪校の合宿開催



女子合宿試合の開催



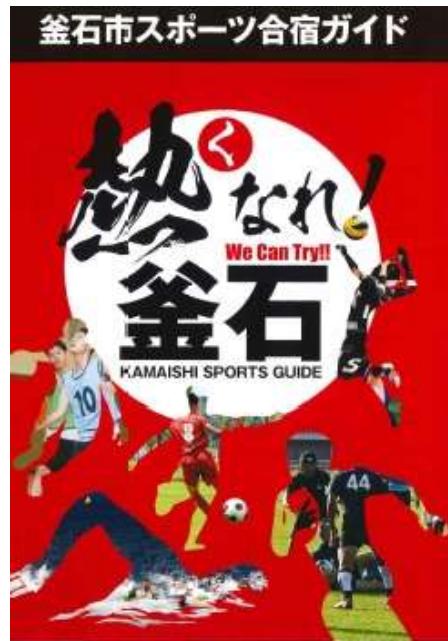
女子合宿試合のあとの交流会

2. 施策の方向性と取組み

(6) 合宿の誘致

宿泊を伴った市内スポーツ施設の団体利用で、宿泊費と交通費の補助「最大で35万円」の交付制度を実施。

- ・合宿の補助制度を創設のうえ施設の照会を兼ねた案内パンフレットを製作



基本計画2 ラグビー以外による利活用の推進

1. 現状と課題

すでにラグビー以外のスポーツ競技はもとより、映画上映会やミニコンサート、野鳥や星空観察会などにも利用されているほか、小中学校の修学旅行などにおける震災学習の場や健康増進や生きがいづくりのための活動に利用されている。施設の利用促進に当っては、こうしたラグビー以外の利用も重要となっている。

2. 施策の方向性と取組み

これまでの利用状況や他の施設の活用事例などについて、市内外に積極的に情報発信していくことで多様な利活用の促進につなげる。

(1) 各種競技団体による大会やイベントの開催

・釜石健康マラソン大会の開催



幼児から高齢者までが鶴住居周辺のマラソンを楽しむ

・釜石大槌地区中学校駅伝競走大会の開催



・サッカー試合・教室の開催



大宮アルディージャサッカー教室

2. 施策の方向性と取組み

(1) 各種競技団体による大会やイベントの開催

・野球試合・教室の開催



市内少年野球チームの交流試合



ジャイアンツアカデミー



工藤公康さんの野球教室

・ニュースポーツ運動会等の開催



グラウンドゴルフ交流大会の開催



2. 施策の方向性と取組み

(2) コンサートや映画祭などの芸術文化活動の開催

・コンサート（音楽演奏）の披露



キックオフ8.19オープニングイベント：平原綾香さんと
釜石市立釜石東中学校生徒さんとの「いつかこの海をこえて」



TBS音楽の日：麻倉未稀さんが「ヒーロー」を熱唱

・映画上映会の開催



スタジアム映画上映会

・郷土芸能・伝統芸能の披露



市内太鼓演舞団体による創作太鼓の披露



市内郷土芸能団体による伝統芸能の演舞披露

2. 施策の方向性と取組み

(3) 修学旅行や教育旅行の誘致

- 施設の案内見学とグラウンドでのラグビー体験学習



地元ラグビーチームとの交流を兼ねたスタジアム体験

(4) 震災学習の実施

- 地元観光DMCや高校生ボランティアによる震災伝承活動



地元観光DMCによる震災伝承ツアーの開催



地元高校生ボランティアによる大震災津波避難伝承活動

(5) その他イベントの誘致

- スタジアムウェディングの開催協力



地元ラグビーチームによるお祝いの演出



釜石ラグビーの特別空間による公開ウェディング

基本計画3 ボランティア受入活動の推進

1. 現状と課題

ラグビーワールドカップ2019™日本大会の大きなレガシーとして、多くのボランティアの方々との絆がある。釜石開催で多くの感動を与える、そして自らも大きなスキルアップと人的交流拡大を得たボランティアの方々は、その多くが釜石鵜住居復興スタジアムでのボランティア継続を希望していただいたことから、当市では官民一体となる「釜石ラグビー応援団」を令和2年7月に設立し、この組織の特別会員に、ボランティア継続を希望した約300名の有志を招き入れる事ができた。

これにより、釜石ラグビー応援団のスタジアムでのボランティア活動を支援することで、各種大会運営にボランティアの力を活用することができるほか、スタジアムの各種清掃活動や避難訓練活動にボランティアを招聘することで、維持管理にかかる経費節減や労力の軽減を図る事が出来る。

また、釜石開催を経験して、ボランティアがそれぞれの目的で満足の行く活動を実施することが、スタジアム利用者や来場者に満足度の高いサービスを提供することにつながることが明白となり、このボランティアを取り仕切るボランティアコーディネーターの重要性が明らかとなった。現在市内において、このボランティアのコーディネーター役を務める人材が少数であることから、このコーディネーターの育成も急務の一つであり、当スタジアムがコーディネーター育成の場としての役割も担うものである。

2. 施策の方向性と取組み

(1) 釜石ラグビー応援団の活動支援

釜石市のラグビーを活用したまちづくりを官民一体となって進める組織「釜石ラグビー応援団（令和2年7月29日設立団結式）」の呼びかけによるボランティア招聘により、スタジアムの各種大会イベントにおいて、ボランティアの配置展開による、おもてなし雰囲気を盛り上げるもの。



令和2年7月29日に開催された設立団結式の様子

2. 施策の方向性と取組み

(2) NPOスクラム釜石と連携したスポーツボランティア活動の誘致開催



NPOスクラム釜石の震災復興支援ツアーオの開催



ラグビー試合での情報発信やボランティア活動

(3) ストリートラグビーライアンスと連携した体験ボランティア活動



ストリートラグビーボランティア活動の誘致開催



地元ボランティアスタッフが集結

(4) その他ボランティア活動

- ・RWC2019チームノーサイド経験者への呼びかけによるイベント運営補助



地元高校生ボランティアとの連携による震災伝承活動



チームノーサイド経験者を招聘してのイベント運営

2. 施策の方向性と具体的な取組み

(4) その他ボランティア活動

・スタジアムの維持管理を兼ねたボランティアイベントの実施

釜石鵜住居復興スタジアムの維持管理に伴う作業を、ボランティア参加者を募ってイベント化することで、多くの支援者の手によって作り上げるスタジアムとしながら、地域、または全国の多くの釜石を愛する人たちのスタジアムであることを継続して発信し、心と心の通じたスタジアム運営を目指すもの。



スタジアム木製シートの防腐剤塗布作業の様子



木製シート塗布作業での集合記念写真

・学生ボランティアによる震災伝承活動の受入



地元高校生ボランティアとの連携による震災伝承活動



・釜石ラグビー応援団と連携したうのスタフードコーナーの開設



釜石ラグビー応援団と連携したうのスタフードコーナーの開設

基本計画4 Web・SNS等を活用した情報発信と利用促進

1. 現状と課題

スマートフォンなどの多機能情報端末が普及し、各種スポーツ観戦のチケット販売において、インターネットでの販売が、当たり前の手段となってきた現状の中で、釜石鵜住居復興スタジアムは、建設当初からはもとより、ラグビーワールドカップ2019™日本大会開催中においても、インターネットを活用しての情報発信をかかさず展開し、情報発信に努めてきた。

これに加え、昨今の新型コロナウィルス感染拡大予防による外出自粛が続くと、さらにインターネットによるWebページやSNS閲覧による情報発信と情報収集が活発化されたことから、当スタジアムも専用のSNSアカウントを取得し、各種情報発信を展開するほか、ラグビー試合などの無観客試合にあわせて、動画配信サイトYouTubeにおける釜石市公式チャンネルの開設と、ラグビー試合のライブ配信を展開することで、新しい生活様式に対応したラグビーを活用したまちづくりを展開してきたもの。



2. 施策の方向性と取組み

・スタジアムHP・SNS等での発信強化

釜石鵜住居復興スタジアムの専用ホームページを構築し、スタジアムでの各種イベント情報や、一般利用受付・ボランティアの受付、YouTube映像の案内を行う事で、広く市内外へ発信してゆくため運用する。

The image shows two side-by-side screenshots of the stadium's digital presence. On the left is the official website homepage, featuring a large aerial photograph of the stadium complex and several news and event blog posts. On the right is the official YouTube channel page, showing a grid of video thumbnails related to local rugby events and community activities.

釜石鵜住居復興スタジアム公式HP

2. 施策の方向性と取組み

・市公式Y o u T u b eチャンネルでの情報発信強化

これまでの画像や活字での情報発信に加え、当市が開設したYouTube公式チャンネルを介して、よりわかりやすい編集動画による、スタジアムの状況やラグビーイベントの情報を発信する。



・釜石ラグビー応援団と連携したラグビー試合のLIVE配信

当市が開設したYouTubeチャンネルを活用して、釜石ラグビー応援団がスタジアムの試合中継やスタジアムイベントの映像を配信し、スタジアムを中心とした各種情報発信を行うもの。



豪華ゲストをお招きしての釜石情報の発信を盛り込んだ試合実況

・市公式LINEアカウントによる情報発信



メニュー▼

2. 施策の方向性と具体的な取組み

- Web予約システムの活用による利便性の向上

多くの利用者が手軽に施設の空き状況や予約ができるための「釜石市体育施設Web予約システム」を、今後さらに修正更新し続け、施設の予約状況の閲覧や、利用申し込みの手続きの際ににおいても、市内の体育施設の位置関係や他の体育施設の情報、体育施設のイベント情報が手軽に収集できるためにバージョンアップを図る。

スマートフォンからの予約を想定したWeb予約システムトップ画面



体育施設の配置レイアウトがわかる地図を表示

通常の施設利用のほか、観察申込のメニューも追加

その他 スタジアムの利活用推進とブランド力向上への取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）の掲げる17の国際目標のうち、釜石鵜住居復興スタジアムは、特に次の7つの持続可能な開発目標について積極的に取り組み、ブランド力を高めるものとする。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3.すべての人に健康と福祉を

スポーツや健康増進の利用を推進しながら健康と福祉の増進を推し進めます。

4.質の高い教育をみんなに

ラグビーのまち釜石教室や震災学習の受け入れ対応を進め、質の高い教育の環境を広げます。

5.ジェンダー平等を実現しよう

利用者を差別することなく、すべての人々に多種多様な利用を楽しんでいただける施設を目指します。

6.安全な水とトイレを世界中に

すべての来場者にトイレと水を提供して参ります。

7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに

スタジアムのエネルギーを木質バイオマス発電やソーラー・風力発電などの環境に配慮したエネルギーの導入を目指して参ります。

14.海の豊かさを守ろう

地元の漁協と連携した海の資源の発信や食文化の体験を進めます。

15.陸の豊かさも守ろう

スタジアムで使われる木材を維持管理しながら緑豊かな空間を創出し続けます。

第3章 スタジアムの運営方法

1. 現状と課題

スタジアム建設計画における設計時から維持費を抑えるための工夫が盛り込まれており、周辺類似施設と比較しても大幅にランニングコストが低く抑えられている。

しかしながら、今後の当市の財源負担を軽減するために、収益性の向上については、大きな検討課題となっているもの。

2. スタジアムの運営方法

～市民に愛される「ラグビーの聖地」を実現するための基盤づくり～

2018年8月の供用開始以来、市直営施設として運営してきたが、公益性を担保しながら収益性を上げるために今後の運営方針について検討してきたところ。

しかしながら、新型コロナウィルス感染症予防の影響により（想定より利用が低調となるなど）民間運営の導入が困難な状況となっている事から、令和7年度までを目途として、市直営による運営を続けながら、指定管理者制度と公募設置許可（Park-PFI）制度を中心として、その導入に向けて、庁内勉強会やサウンディング調査を実施するなど可能性を探りながら検討を進めていく。

3. 今後のスケジュール (Park-PFI制度導入の際の想定)

実施時期	Park-PFI検討・調査の内容	連動する動き
令和4年3月 (2022)	スタジアム運営計画の策定 ↓ 直営延長	
令和4年 (2022)	○運営方針の整理 (Park-PFI制度導入の際の募集内容を整理) ○首都圏域や仙台圏域での釜石ラグビー応援プラットフォームを組織展開	○ラグビーのまち推進協議会での意見確認 ○NPOスクラム釜石との連携会議 ○庁内勉強会の開催
令和5年 (2023)	○首都圏、仙台圏、岩手圏域の釜石ラグビー応援事業者へ調査の参加呼びかけを開始 ○Park-PFI参加検討事業者との相談会の開催	○NPOスクラム釜石 ○次代の創造工房との連携による首都圏域や仙台圏域での連携会議の開催
令和6年 (2024)	○参加事業者の絞り込み ○参加事業者との意見交換会 ○設置許可の内容の作成	○運営委員会分科会 ○庁内勉強会メンバーでの参加希望事業者に対する評価の確認
令和7年 (2025)	○Park-PFI公募設置許可等の指針の作成・公表→公募 ○提出された申請書の審査 ○基本協定の締結	○市議会やパブリックコメントによるPark-PFI制度導入の意見募集
令和8年 (2026)	○Park-PFI管理許可事業者による運用開始	

4. 運営費の推移

年 度	R 2	R 3（見込み）	R 4（予算）
利用料収入	3,015千円	3,270千円	2,626千円
維持費	36,895 千円	37,220千円	38,753千円
うち人件費	10,250千円	12,000千円	13,073千円
設備維持費	22,441千円	20,870千円	21,250千円
光熱水費等	4,204千円	4,350千円	4,430千円
差引管理費	33,880千円	33,950千円	36,127千円

運営方法検討にかかる参考資料（フューチャーセッションズ社資料提供）

	指定管理者制度	公募設置管理制度 (Park-PFI)	PFI制度 (BTO、BOT、BOO、コンセッション等)
事業手法	公設民営	公設民営	公設民営
自治体 視点 メリット ・ デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ●メリット <ul style="list-style-type: none"> ・施設人件費等の削減 ・非効率的な契約手続きの簡略化(入札等の手続、延滞料の計算等) ・経費縮減や利用者のニーズに対応したきめ細やかな質の高いサービスの提供が期待できる ●デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・自治体が運営の意識を持ちにくくなる危険性があること ・施設で直接住民に顔を合わせるのが指定管理者であるため、住民の要望に自治体が速やかに対応できない可能性がある ・経費縮減の優先によるサービスの質の低下 ・指定管理者毎に提供するサービスが変わるために継続性や連続性を保ちにくくなること ・指定期間の終了を迎えると、新たな管理者を公募しても、現行の管理者しか手が上がらず、運営に関する新規提案が出にくいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ●メリット <ul style="list-style-type: none"> ・民間資金を活用することで、公園整備、管理運営にかかる財政負担が軽減される。 また、民間の創意工夫を取り入れ整備、管理、運営により、公園のサービスレベルの向上を図ることができる ●デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・行政がこれまで以上に民間の業務状況を把握して、管理や指導をしなければ、公共サービスの品質の低下を招く可能性があること ・価格だけでなく企業の持つノウハウや事業計画の内容についても評価するため、事前の手続き要する業務が増え、時間も必要になること 	<ul style="list-style-type: none"> ●メリット <ul style="list-style-type: none"> ・国民に対して、安くて質の良い公共サービスが提供されること ・公共サービスの提供における行政の関わり方が改善されること ・民間の事業機会を新たに創り、経済活性化に貢献すること ●デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・行政がこれまで以上に民間の業務状況を把握して、管理や指導をしなければ、公共サービスの品質の低下を招く可能性があること ・価格だけでなく企業の持つノウハウや事業計画の内容についても評価するため、事前の手続きに要する業務が増え、時間も必要になること
企業視点 メリット ・ デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ●デメリット <ul style="list-style-type: none"> 民間事業者による投資が不可 ↳指定管理期間が通常短い →前提/利用料金が条例で低い →投資回収不可 →老朽化・陳腐化 →指定管理料引き下げ →収益が少なく、工夫ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ●メリット <ul style="list-style-type: none"> ・都市公園内のビジネスチャンスが拡大し、従前に比べ規模の大きな施設の設置管理や、長期の設置期間も保証され、長期的視野での投資、経営が可能。 ・豊かな空間を活用して自らが設置する収益施設に整合した広場などを一体的にデザイン、整備できることで、収益の向上にもつながる質の高い空間を創出できる。 ●デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・参入する準備が煩雑 ・実績を求められることも多く、参入障壁が高い ・投資回収期間が長期にわたる事例が多く、リスクが大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ●メリット <ul style="list-style-type: none"> 従来の自治体が担ってきた『まちづくり』や『文化の継承』など、公共性の高い事業に携わることができる ●デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・参入する準備が煩雑 ・実績を求められること多く、参入障壁が高い ・投資回収期間が長期にわたる事例が多く、リスクが大きい
主な 関係法令	地方自治法	都市公園法	PFI法

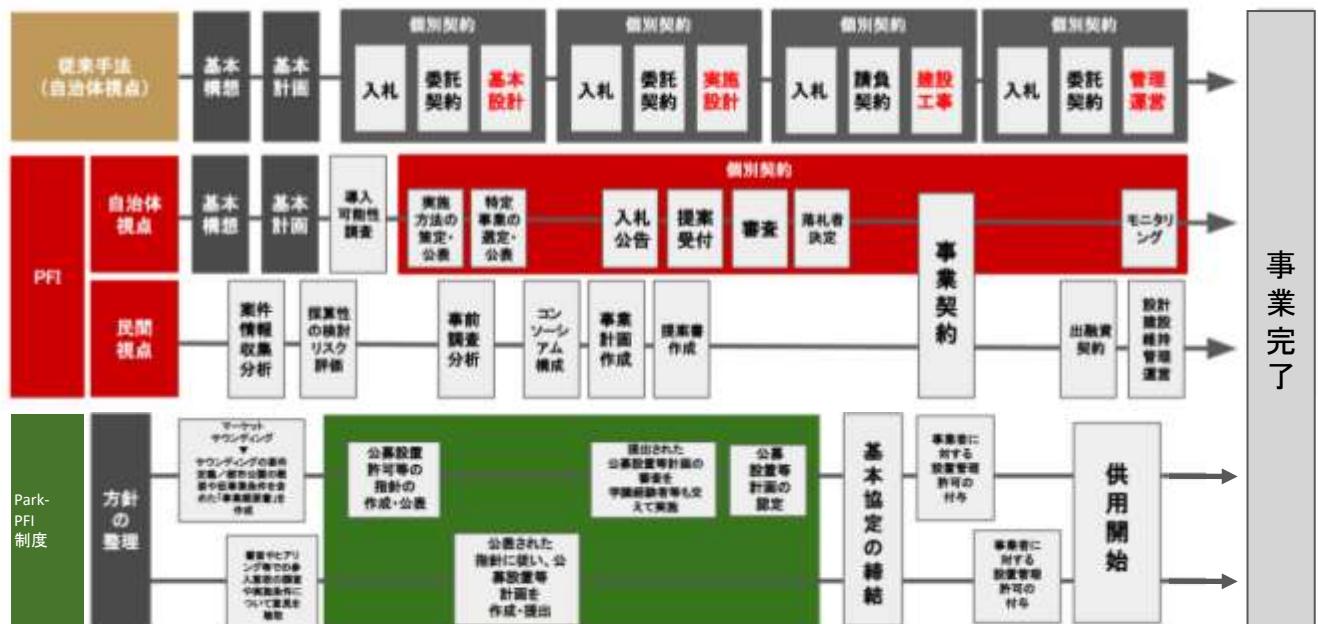
運営方法検討にかかる参考資料（フューチャーセッションズ社資料提供）

	指定管理者制度	公募設置管理制度 (Park-PFI)	PFI制度 (BTO、BOT、BOO、コンセッション等)
概要	公の施設の目的を効果的に達成するため、民間事業者等を指定管理者とし、公の施設の管理を行わせることができる制度	都市公園の施設について、公園管理者以外が公園管理者の許可を受けて管理することができる制度（公園管理者の許可を受けて施設の設置を行うことも可能）	コンセッション以外 →公共施設等の設計、建設、維持管理、運営を、一括して民間事業者に尋ねる制度 コンセッション →利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営権を民間事業者に設定する制度
期間	法令上、特に制限なし (だが、3年から5年で設定されるケースが多い)	1回の許可の期間の上限は10年間	法令上、特に制限なし (先行事例における事業期間は7~30年程度)
事例	カシマサッカースタジアム (10年間、公募) ↑期間を延ばして、負のスパイラルを阻止	楽天生命パーク宮城	ミクニワールドスタジアム北九州

※参考：日本政策投資銀行・日本経済研究所・早稲田大学スポーツビジネス研究所
(2020) .Business Research

スマート・ベニューハンドブック——スタジアム・アリーナ構想を実現するプロセスとポイントダイヤモンド社
原田・間野 (2020) .スポーツファシリティマネジメント (スポーツビジネス叢書)大修館書店を一部編集

【様々な運営方針の導入～事業完了までのプロセス】



条例・規則・設置要綱

○釜石市都市公園条例(昭和49年釜石市条例第25号)

○釜石鵜住居復興スタジアム管理運営規則（令和2年釜石市規則第5号）

○釜石鵜住居復興スタジアム運営員会設置要綱

計画策定の参考資料

平成30年度スポーツ施設の個別施設計画策定支援事業成果報告書
(平成30年度スポーツ庁委託事業成果)